

令和5年度子ども議会(中学生の部) 質問と答弁の要旨

| 議席番号 | 学校名 | タイトル | 質問要旨 | 答弁要旨 | 担当課 | 答弁者 | 再質問要旨 | 再答弁要旨 |
|------|-------|---------------------------------|--|--|----------------|-------|-------|-------|
| 1 | 川本中学校 | 深谷ねぎの全国への普及について | 総合的な学習の時間で、深谷ねぎは糖度が高く、とてもおいしい深谷の特産物であることを知りました。また、深谷ねぎを普及させるために、「深谷ねぎ祭り」を開催したり、深谷ねぎでアイスを作っていることを知りました。 深谷ねぎを全国にさらに普及させることで、深谷の認知度が高まり、他の産業の発展にもつながると思います。 しかしながら、ねぎ農家の人口は減少し続けており心配されます。市として、ねぎ農家を増やすためにやっている対策はありますか。 | 深谷ねぎは深谷を代表する農畜産物の一つで、多くのかたに知ってもらい、食べてもらえるようさまざまな取組を実施しています。 全国各地のねぎ産地で毎年開催されている「全国ねぎサミット」への参加や、11月23日の勤労感謝の日を「深谷ねぎらいの日」と定め、大切な人へ労いの気持ちを込めて深谷ねぎを贈り、労いの気持ちを表す日としています。 一方で、農業人口は減少しており、市の農業課題の一つとなっています。市では、埼玉県や市内3農協と協力し、新規就農相談窓口の設置や支援、農業研修を行うなど、農業人口を増やす取組を行っています。 今後も、農業団体と協力して、農業課題を解決し、深谷の農業の魅力や深谷ねぎをはじめとする深谷産農畜産物を全国に広めていく取組を積極的に実施していきます。 | 農業振興課 | 産業振興部 | | |
| 2 | 明戸中学校 | 災害時における利根川の氾濫対策について | 「深谷市ハザードマップ」によると、明戸地区を含めた利根川に面した地区は氾濫水が到達する可能性がある範囲に含まれており、浸水の深さは3m～5mに達するとされています。 利根川が氾濫しないように防水堤などが使われていることは知っていますが、近年の集中豪雨などを見ると少し不安を感じます。 第71回利根川水系連合・総合水防演習がありましたが、現在、市で考えている水防対策や氾濫防止対策、避難の仕方を教えてください。 | 水害から地域を守る水防対策として、深谷市は熊谷市と合同で水防団を結成し、危険個所の点検や訓練など、災害時に被害を最小限に食い止めるための活動を行っています。 また、氾濫防止対策として、国による堤防強化事業が進められており、市としても関係団体と連携しています。 避難の仕方については、河川の氾濫の危険性が高まったときには、避難指示等の避難情報などをメール配信サービスやホームページ、Twitter、テレビのデータ放送など、色々な方法で伝達します。 皆さんには、日頃からハザードマップで地域の状況を確認するとともに、情報の取得方法を確認し、実際に避難情報が発表された際には、早めの避難を心掛けてもらいたいと思います。 | 総務防災課 道路河川課 | 総務部 | | |
| 3 | 幡羅中学校 | 自転車利用者の交通安全について | 登校の際に自転車通行可の歩道を歩いていますが、場所によっては雑草が生い茂っていたりして、自転車とすれ違いができて危険なところがあります。 市では、歩行者の安全のため、また、自転車のかたが気持ちよく走行するために、自転車専用の道路や道路の定期的な除草など、自転車の交通安全に対する取組を実施する予定はありますか。 | 市が管理する道路の延長は、約2,300kmでこれを日本列島で置き換えると、おおよそ北海道から沖縄までの距離と同じになります。 このように市が管理する道路延長は長く、すべての道路を定期的に除草することは難しいことから、職員のパトロールや市民のかたからの通報を受けて対応しています。 議員ご提案の自転車専用道路については、歩行者や自転車が通行しやすくなり、交通事故の減少も見込まれるなど、市としても必要性は感じていますが、工事をするためには土地の確保を含め、多くの時間と費用がかかることから、残念ながら進められない状況です。 現在、市では交通安全の取組として、「通学路整備計画」に基づき、通学路に「グリーンベルト」を設置するほか、交通安全教室や交通安全キャンペーンなどの交通マナー向上の啓発活動を行っています。 | 道路管理課 | 都市整備部 | | |
| 4 | 深谷中学校 | 深谷市を若者にとって魅力的な街にするための具体的な施策について | 現在、地方の若者がどんどん東京に行ってしまうと聞きます。これは深谷市も同様で、高校を卒業した若者が都心に移り住んでいるようです。 これでは、深谷市は元気がなくなってしまうと思います。若者が深谷市に留まって働けるような雇用を生み出したり、都心の人が深谷市に来てくれるような魅力的な街にするなど、具体的な事業や施策を考えていますか。 | 深谷市の人口は、全国的な傾向と同様に年々減少しています。その中でも、18歳から22歳の人口は10年前と比べ約4.1%の減少となっており、全年齢の減少割合より大きい状況となっています。 一方、転入者数が転出者数を上回る「社会増」の状況がありますが、死亡者数が出生数を上回る「自然減」がより多い状況であることから、市では、人口減少を抑えるため、さまざまな取組を進めています。具体的には、若い世代に住んでもらえるよう、引越費用や新幹線通勤に係る費用などの補助を行っています。 また、農地付き空き家の改修補助を行うなど、深谷市の特色を生かした支援策を推進し、新しく深谷市に住む人の増加に力を入れています。 そのほか、子育て世帯への支援策として、子どもが生まれた際に地域通貨ネギーを交付したり、保育料を無料とするほか、18歳までの子どもの医療費を無料化するなど、深谷市独自のさまざまな支援を行っています。 また、現在、こども館と幼稚園の複合施設の建設を進めるなど、子育て環境の整備も積極的に進めています。 まちづくりとしても、深谷市の魅力を向上させることで、「深谷に住み続けたい」という気持ちを高める取組を行っています。 | 企画課 | 企画財政部 | | |

令和5年度子ども議会(中学生の部) 質問と答弁の要旨

| 議席番号 | 学校名 | タイトル | 質問要旨 | 答弁要旨 | 担当課 | 答弁者 | 再質問要旨 | 再答弁要旨 |
|------|-------|--------------------------|--|---|----------------------|-----------|-------|-------|
| 5 | 藤沢中学校 | 自然環境保全に対する深谷市の具体的な取組について | 生徒総会で意見交換し、私たちがずっと住み続けたい深谷市は、「深谷市全体で環境に優しい活動をするまち」に決まりました。これには、市民全員がSDGsに関する取組をすることで、市の自然を守っていく必要があるのではないかという思いが込められています。中学生にできる取組は、ごみを拾うことやポイ捨てをしないこと、エコバッグを使用することだと考えています。市全体では、自然環境保全について具体的にどのような取組を行っていますか。具体的な取組が明確になると、私たちにもできることが増えると思います。 | 私たちが自然環境保全のためにできることとして、「地球温暖化を防ぐ」、「資源の持続可能な利用を進める」、「自然や生き物の多様性を守る」ことなどが挙げられています。市では、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティふかや」を宣言し、市民の皆さんには、省エネ家電やエコカーの利用、エコ通勤などをお薦めしています。また、資源を有効に繰り返し使う循環型社会の実現を目指し、市民の皆さんには、食べ残しをしない工夫をする、地産地消を心掛ける、環境に配慮した製品を使用することなどをお薦めしています。さらに、ごみ拾いのボランティア活動への支援やアライグマなどの特定外来生物の防除により、地域固有の生態系を守るとともに、市民の皆さんには、清掃活動や保全活動への参加、ペットの適正管理などをお願いしています。 | 環境課 | 環境水道部 | | |
| 6 | 豊里中学校 | 深谷市コミュニティバス「くるりん」の運行について | 豊里地区には、一人暮らしのかたや車を運転できないお年寄りのかたがたくさんいます。深谷市コミュニティバス「くるりん」は、車を運転できない子どもやお年寄りが移動する手段として、たいへん便利だと感じていますが、以前よりも運行数や駐車場が少なくなり、不便に感じることもあります。「くるりん」を子どもやお年寄りにもっと利用してもらうために、予約方法の変更、運行数や駐車場の増加などは予定していますか。 | 「くるりん」には2種類の運行方法があり、1つは毎日決まった時間に決まったルートで運行する「定時定路線」、もう1つはルートや時間を決めず、利用者の要望に合わせて運行する事前予約型の「デマンドバス」となっています。市では、より多くのかたに「くるりん」を利用してもらえるよう、さまざまな検討を行っています。今年の5月には、これまで電話に限定されていた「デマンドバス」の利用予約がインターネット上からも可能になり、夜間や早朝の時間帯にも予約ができるようになりました。また、今後は市内すべての病院等への「デマンドバス」のバス停設置を考えています。運行数の増便とはいきませんが、お年寄りの利用が多い病院等へのバス停を増加させることにより、サービスの充実を図っていきます。今後も、利用者のご意見をできる限り反映させ、皆さんに愛される「くるりん」を目指していきます。 | 都市計画課 | 都市整備部 | | |
| 7 | 南中学校 | 渋沢栄一翁の取組について | 南中学校では、ふるさと教育として渋沢栄一翁について学ぶために、さまざまな取組を行っています。市でも、大河ドラマ「青天を衝け」にちなみ、文化会館で栄一翁のことを紹介したり、生誕180年の節目に渋沢栄一記念館でアンドロイドの講義を受けられたりと、さまざまな取組を行っていると思います。来年度から新一万円札に栄一翁が肖像として使用されますが、今後、栄一翁を多くのかたに知ってもらうためにどのような取組を考えていますか。 | 市では、子どもの頃から栄一翁について学ぶ機会を設けています。栄一翁を多くの人に知ってもらうための取組として、8月10日に栄一翁が生まれた地にある旧渋沢邸「中の家」の主屋がリニューアルオープンし、皆さんに見学してもらえるようになります。ここでは、80歳くらいの栄一翁のアンドロイドが皆さんをお出迎えし、映像とともに思い出を語るシアターを楽しむことができます。また、栄一翁や深谷市のことを身近に知ってもらうよう、「深谷栄一」というキャラクターを新たに制作しました。今年の4月から、このキャラクターを活用してYouTubeでの動画配信を行っています。このほかにも、来年7月の新一万円札の発行に向けて、のぼり旗の設置や市内外でのイベントなどを考えているので、皆さんも一緒に深谷市と栄一翁を盛り上げてもらいたいと思います。 | 渋沢栄一政策推進課 渋沢栄一記念館 | 渋沢栄一政策推進部 | | |
| 8 | 上柴中学校 | 親世代、子世代にとって、魅力ある街づくりについて | 私が入学する前までは、上柴中学校はすべての学年が5クラスでしたが、現在は4クラスに減少しています。このことから、深谷市の子ども数が減少しているかと思えます。深谷市をこれからも活発で豊かな街にするためには、未来を創る子どもの人口増加が重要だと思われれます。そこで、市では、親世代・子世代にとって魅力ある街づくりをどのように行い、計画しているのか教えてもらいたいです。 | 深谷市全体の0歳から14歳までの人数を10年前と比べると、約17.2%減少しており、上柴地区においても、約21.7%減少しています。市では、人口減少対策により、親世代も子世代も増やしたいと考えています。具体的な取組としては、妊娠から子育てに至るまで切れ目のない支援を行い、安心して子育てができる環境づくりを進めています。出産祝金の支給や保育料の完全無償化、18歳までの医療費無償化などはその一環です。また、小中学校では、渋沢栄一翁の精神や深谷の特色を学ぶ「ふるさと教育」を通じて、地域に愛着と誇りを持つような教育を行っています。さらに、親世代も子世代も楽しめる「ふかや花園プレミアム・アウトレット」や「アクアパラダイスパティオ」をはじめ、皆さんがいきいきと暮らせるようなまちづくりを進めていきたいと考えています。こうした取組の一環として、現在、幼稚園・こども館複合施設の建設を進めており、こども館は県内最大規模の施設となります。市では、これらの取組を通じて、深谷市が暮らしやすく、安心して子育てができる魅力的な街であることをたくさんの人に知ってもらい、子どもの人口増加につなげていきたいと考えています。 | 企画課 | 企画財政部 | | |

令和5年度子ども議会(中学生の部) 質問と答弁の要旨

| 議席番号 | 学校名 | タイトル | 質問要旨 | 答弁要旨 | 担当課 | 答弁者 | 再質問要旨 | 再答弁要旨 |
|------|-----------------|-----------------------------------|---|---|-------|-------|-------|-------|
| 9 | 岡部中学校 | 渋沢栄一「論語と算盤」の教えを踏まえた深谷版SDGsの実践について | 授業でSDGsについて学習している中で、深谷市がSDGs未来都市に選定されていることを知りました。 私たちが学んできた渋沢栄一翁の精神がSDGsに生かされていることを誇りに思うと同時に、私たちにできることはないか考えるきっかけとなりました。 渋沢栄一「論語と算盤」の教えを踏まえた深谷版SDGsの実践について、私たちにできることを教えてください。 | SDGsとは、持続可能な社会を実現するために、国際連合が掲げた17の目標です。深谷市では、より多くの企業や団体と連携することで、幅広くSDGsを推進していきたいことから、SDGs未来都市の指定にエントリーし、今年5月にSDGs未来都市に選定されました。 市では、「論語と算盤」の教えをもとに、深谷市SDGs未来都市計画を策定し、現在さまざまな取組を進めています。小中学生の皆さんに関係する取組としては、「生きる力」を育む学校教育の推進に力を入れていくこととしています。 また、皆さんが日々、渋沢栄一翁の精神やSDGsについても学んでもらい、それを実践してもらいたいと考えています。 日常生活の中でも、給食を残さず食べる、無駄な電気を使わないなど、身近なところでは数多くあります。そして、何より、周りの人を思いやる気持ちと、自分にできることは何かを考えることがSDGsを達成し、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現につながると考えています。 | 企画課 | 企画財政部 | | |
| 10 | 東京成徳大学 深谷中学校 | 「ゼロカーボンシティふかや」を実現するための取組について | 深谷市は、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティふかや」の宣言を行っていますが、具体的にどのような取組を行っているのでしょうか。私は、二酸化炭素を削減できているというより、排出量は増加しているように感じます。 現在、多くの方がふかや花園プレミアム・アウトレットへ訪れるために自家用車やバス等を利用しています。交通機関の利用の増加はガソリン等の消費及び二酸化炭素排出量増加につながります。 地域活性化の面でアウトレットへの集客は大切だと思いますが、このことによって排出される二酸化炭素を削減するために、現在取り組んでいる、もしくは実施予定の具体的な対策を教えてください。 | 市では、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティふかや」を令和3年1月に宣言しました。 また、令和5年3月に見直した「深谷市環境基本計画」の中では、二酸化炭素排出量を2030年までに2013年の数値と比べ、46%削減することを目標としています。 アウトレットのオープンに伴い、市では、自家用車を使わず、公共交通機関を利用してもらえるよう案内をしました。これは、交通渋滞を回避するとともに、環境への負荷を軽減する効果も期待できます。 市では、自家用車で移動する際には「エコドライブ」を推奨しています。優しい発進やアイドリングストップをするとガソリン等の消費量を削減できます。今後も電気自動車等の環境に配慮した自動車を活用する「ゼロカーボン・ドライブ」をより推進していく予定です。 | 環境課 | 環境水道部 | | |
| 11 | 花園中学校 | スポーツ環境の整備について | 陸上の大会で仙元山陸上競技場をよく使っていますが、競技場全体の老朽化が進んでおり、整備が不十分だと感じています。 仙元山公園は、多方面からスポーツに訪れ、まさに市のスポーツの中心地だと言えます。 多くの方が利用したいと思える施設整備が行われれば、深谷市のPRにもなり、観光誘致にもつながるのではないかと思います。 老朽化している陸上競技場のグラウンド整備は、今後どのようにされるのでしょうか。 | 仙元山陸上競技場は、設置から36年が経過し、トラックの状態も含め、施設全体として老朽化が進んでいます。 こうした中、現状では、不具合箇所の部分的な補修と定期的な維持管理に努め、多くのかたにご利用いただいています。 仙元山公園は深谷市のスポーツの中心であり、今後もスポーツ振興の中心地として将来に引き継いでいかなければならないと考えています。 議員の観光誘致にもつながるといったご提案は、市でも同じ考えを持っていますが、陸上競技場の整備については、多額の費用と時間がかかるため、将来の活用方法やスポーツ全般について協議を重ね、検討を進めていきます。 | 公園緑地課 | 都市整備部 | | |